

徳田 廣*・小河久朗**・福代康夫*：
新崎盛敏先生のご逝去を悼む

Hiroshi TOKUDA*, HISAO OGAWA** and Yasuwo FUKUYO*:
Seibin ARASAKI (1912-1989) in memory



東京大学名誉教授農学博士新崎盛敏先生は、平成元年10月26日早朝、肝不全のためご逝去されました。享年77才でした。ここに深く哀悼の意を表します。

先生は明治45年5月28日沖縄県に生れ、沖縄県師範学校付属小学校、沖縄県立第一中学校、第七高等学校造士館理科甲類を経て、東京帝国大学農学部水産学科をご卒業後、直ちに財団法人三井海洋生物研究所研究員を半年にわたり嘱託され、昭和11年9月東京帝国大学助手に任ぜられて農学部付属水産実験所に勤務されました。昭和23年11月東京大学助教授に補され、農学部勤務され、昭和39年4月同教授に就任し、水産海洋学講座を担任されました。昭和48年4月停年により退官され、同年5月東京大学名誉教授の称号を授与されました。同年4月からは、日本大学農獣医学部教授に就任され、昭和54年3月に退職されました。すなわち、40有余年の永きにわたり、国立・私立の両大学において、水産植物学、水産海洋学、水産生物学などの分野において、研究と教育にご尽力されました。

東京大学在職中に、東北大学、静岡大学、神戸大学、日本大学などの講師も併任あるいは嘱託されましたが、学内にあっては学科主任、課程主任、農学部付属水産実験所長をはじめ各種の委員を歴任され、大学の運営に尽されました。学外では、日本学術会議、文部省、通産省、科学技術庁などの各委員および講師、日本水産学会年会大会委員長、日本海難防止協会水質汚染対策委員会会長として、学術の発展に尽すとともに、科学行政の振興に大きく貢献されました。また、学識経験者と民間会社とによる研究グループ・海藻魚礁研究会会長に在任中でありました。

先生は、水産植物の養殖、発生、生理、生態の研究において、数多くの優れた業績をあげられましたが、なかでも、学位論文となりました「アサキサノリの腐敗病に関する研究」(昭和22年)は、わが国特有のアマノリ養殖において、従来より大きな障害となっていた病害を解明された研究であり、その後のご研究と相まって、水産植物病理学という新たな学問分野を世界に先駆けて創設されました。また水産植物分類学においても造詣の深いひとりであり、アオサ科、ウシケノリ科をはじめ、先生の故郷沖縄に多く生育するカサノリ科の分類には一家言をお持ちでした。

先生は、このような深い学識に加え、高潔なご人格も兼ね備えられ、学問研究に専心されながらも、人間味溢れる恩情をもって後進の指導にあたられました。先生のご薫陶を受けた弟子はわが国のみに留まらず、海外からの研究者、学生にまで及び、彼らは今広く世界で活躍しております。また海外の藻類学者との交際も多く、なかでもドイツの Fritz Gessner 博士、アメリカの Luigi Provasoli 博士、同 Maxwell S. Doty 博士らとはご家族ぐるみのお付き合いをされておりました。かくのごとく、先生には永年にわたり優れた研究業績をあげられるとともに、幾多の有為な人材を育成され、学会、教育界、さらには産業界の発展に尽力されました。そのご功績に対し、ご命日の平成元年10月26日付にて正四位に叙せられ、勲三等瑞宝章をおくられました。

終りに先生の研究業績の概要を紹介し、心よりご冥福をお祈り致します。

(*113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部水産学科, **980 仙台市堤通兩宮町1-1 東北大学農学部水産学科)

研究業績概要

I 著書

1. 新崎盛敏他 (共著): 水産学集成. 東京大学出版会. 1957.
2. 新崎盛敏: 原色日本海藻検索図鑑. 北隆館. 1964.
3. S. ARASAKI (共著): Cultures and Collections of Algae. Japan. Soc. Plant Physiol. 1966.
4. 新崎盛敏 (共著): 東大公開講座「うみ」. 東京大学出版会. 1972.
5. 新崎盛敏 (共著): のりの病気. 恒星社厚生閣. 1973.
6. 新崎盛敏・堀越増興・菊池泰二: 海藻・ベントス. 東海大学出版会. 1976.
7. 新崎盛敏・新崎輝子 (共著): 海藻のはなし. 東海大学出版会. 1978.
8. S. ARASAKI and T. ARASAKI: Vegetables from the Sea. Japan Publication Inc. 1983.

II 論文

1. 新崎盛敏: スジノリの生活史に就いて (予報). 植物学雑誌 51. 1937.
2. 新崎盛敏: 緑藻ホソエガサの発生, 生長に及ぼす光の影響に関する二, 三の実験. 水産学会報 8(3/4). 1941.
3. 新崎盛敏: フトモズク *Tinocladia crassa* (OKAMURA) KYLIN の生活史に就いて. 日本水産学会誌 10. 1941.
4. 新崎盛敏: ホソエガサの生活史に就いて. 植物学雑誌 56. 1942.
5. 新崎盛敏: イロロ *Ishige foliacea* OKAMURA の生活史に就いて. 植物学雑誌 57. 1943.
6. 新崎盛敏: アオサ科及びヒトエグサ科植物の胞子の発芽に就いて. 生物 1(5-6). 1946.
7. 國枝 溥・新崎盛敏: セイヨウハバノリ及びハバモドキの生活史. 生物 2(6). 1947.
8. 新崎盛敏: アサクサノリの腐敗病に関する研究. 日本水産学会誌 13. 1947.
9. 新崎盛敏: ニセモズク, クロモ及びシワノカワ

の生活史に就いて. 生物 3. 1948.

10. 新崎盛敏: アサクサノリの腐敗病に関する研究. 日本水産学会誌 13. 1947.
11. 新崎盛敏: 伊勢・三河湾産フロフノリの生態学的研究 (I). 日本水産学会誌 13. 1948.
12. 新崎盛敏: ウイキョウモ *Dictyosiphon foeniculaceus* の生活史とその系統的関係について. 植物学雑誌 62. 1949.
13. 新崎盛敏: 伊勢・三河湾産フロフノリの生態学的研究 (II). 日本水産学会誌 14. 1949.
14. 新崎盛敏: 伊勢・三河湾のヒトエグサに就いて. 日本水産学会誌 15. 1949.
15. 新崎盛敏: アマモ, コアマモの生態 (I). 日本水産学会誌 15(10). 1950.
16. 新崎盛敏: アマモ, コアマモの生態 (II). 日本水産学会誌 16(2). 1950.
17. H. KUNIEDA and S. ARASAKI: On the *Eisenia* found in Japan. 7th Pacific Sci. Congr. 5. 1953.
18. 新崎盛敏: 海藻胞子の発芽, 生育に及ぼす光の影響に関する二, 三の実験. 日本水産学会誌 19(4). 1953.
19. 新崎盛敏・野沢治治: サメズグサの生活史とその分類上の位置について. 藻類 1(1). 1953.
20. 新崎盛敏: アラメについて. 藻類 1(2). 1953.
21. 新崎盛敏: マリモの球団形成と繁殖に関する観察. 科学 23(2). 1953.
22. 新崎盛敏: アサクサノリの生活史. 科学 24(2). 1954.
23. 新崎盛敏: アサクサノリの科学的栽培. 科学 24(2). 1954.
24. 新崎盛敏: アサクサノリの病害とその対策. 植物防疫 10. 1956.
25. 新崎盛敏・藤山虎也・斉藤雄之助: アサクサノリ胞子の付着と海況について. 日本水産学会誌 22(3). 1956.
26. 新崎盛敏: アサクサノリの品種別と育種. 水産増殖 4(4). 1957.
27. 新崎盛敏: アオノリ類駆除と病気に対する問題点. 水産増殖 4(4). 1957.
28. 新崎盛敏・野沢治治・三宅 真: 病原性水生糸状菌の生理生態に関する研究—I. 日本水産学会誌 23(9). 1958.
29. 新崎盛敏・野沢治治・三宅 真: 病原性水生糸状菌の生理生態に関する研究—II. 日本水産学会誌 23(10). 1958.

30. 新崎盛敏・野沢治治：除藻剤 Delrad について。日本水産学会誌 23(10). 1958.
31. 新崎盛敏：海藻類の生育と水温 (I)。水産増殖 5(4). 1958.
32. 新崎盛敏：海藻類の生育と水温 (II)。水産増殖 6(2). 1958.
33. S. ARASAKI and I. SHIHIRA: Variability of morphological structure and mode of reproduction in *Enteromorpha linza*. Japan. J. Bot. 17(1). 1959.
34. 新崎盛敏：アサクサノリの生活史。遺伝 13(2). 1959.
35. 新崎盛敏：アマノリ類に寄生する壺状菌について。日本水産学会誌 26. 1960.
36. 新崎盛敏・井上晃男・河内康伸：ノリの病害、特に1959年漁期東京湾奥部でみられた癌腫病・壺状菌病について。日本水産学会誌 26. 1960.
37. 新崎盛敏：アサクサノリの人口養殖に関する研究 III. ノリ赤腐れ病について。農電研究所報告 3. 1962.
38. 新崎盛敏：緑藻カサノリ *Dasycladales* の生物学。海洋科学 8. 1966.
39. 徐 明德・徳田 廣・新崎盛敏：潮間帯藻類の光合成リズムに関する 2, 3 の実験特にウスバアオノリについて。日本プランクトン研究連絡会報 松江博士記念号。1967.
40. M. OHNO and S. ARASAKI: Pigments in spores and thallus of *Ulva pertusa*. Inf. Bull. Plankt. Japan, Comm. No. of Dr. Y. MATSUE. 1967.
41. S. ARASAKI, K. AKINO and T. TOMIYAMA: A comparison of some physiological aspects in a marine *Pythium* on the host and on the artificial medium. Bull. Misaki Marine Biol. Inst. Kyoto Univ. 12. 1968.
42. 大野正夫・新崎盛敏：海藻類胞子に対する暗処理の検討。藻類 17(1). 1969.
43. 新崎盛敏：海中公園と海藻景観。沿岸海洋研究ノート 8(1). 1970.
44. 新崎盛敏：ノリ養殖技術と沿岸海洋学の接点、特に近年のノリ作柄とノリ場環境からみて。沿岸海洋研究ノート 10(1). 1972.
45. 池森雅彦・新崎盛敏：海藻の光合成色素 I. 緑藻類と海草類に含まれるクロロフィルとカロチノイドの二次元ペーパークロマトグラフィーによる分離。藻類 25(2). 1977.
46. 徳田 廣・新崎盛敏：石油汚染が海洋生物に及ぼす影響の基礎的研究—I. 流出油乳化剤の植物プランクトンに対する致死作用。日本水産学会誌 43(1). 1977.
47. 田島迪生・池森雅彦・新崎盛敏：アワビに含まれる餌料藻起源の色素—I. 緑藻類を餌料としたアワビの貝殻に含まれる色素の分析。日本水産学会誌 46(4). 1980.
48. 田島迪生・池森雅彦・新崎盛敏：アワビに含まれる餌料藻起源の色素—II. アワビの各器官に含まれる色素の特性。日本水産学会誌 46(5). 1980.
49. 佐野 修・池森雅彦・新崎盛敏：ホソエガサの能登半島における分布と生態。藻類 29(1). 1981.
50. S. ARASAKI: A comparison of the phenology of intertidal *Porphyra* on the coast of Japan and western North America. Proc. 8th Int. Seaweed Symp. 1981.
51. 新崎盛敏：物語日中昆布史 1, 2. 水産の研究 2. 1983.
52. S. ARASAKI: A new aspect of *Ulva* vegetation along the Japanese coast. Hydrobiologia 116/117. 1984.
53. 新崎盛敏：アラメ, カジメ。海洋科学 186. 1985.